る見込みである續いてサン 大差なく六十萬圓を突破す

で漁に從事すべく準備に着

手した

V 漁 節を 爲 K 建建

TP)

遠洋漁業に愈々着手

年の 面へ遠洋航行中であるが本し見込みであるから漁獲高 磐城各濱のカツヲ漁はいよ|ゐるので本年からは北海道 終期となり目下岩手方一釧路方面まで遠征する者多 磐城七濱活氣づく の如きも昭和二年の

うといはれてゐる 署次席は

七濱を賑はしたので昨年と

大漁を續け小名濱、江名等

なかつたが六月以降は連日

破し新レコードを作るだら

漁況は

初期思はしく

州

六

萬

をはるかに突

警官異動に伴ふ平暑各主任 は左の如く決定した 司法主任警部補若林五郎屈問會を開き對策協議とな 特高主任警部補矢部竹二 司法警部補 次席警部補 鯨岡警部補 齋藤 鯨 岡

サンマ漁は小

ン以上の大型船を新造して 出來なかつたが最近四十下 型船のため思ひ切つて遠航

合理名

が問題を買

平町當局非常に張狽

近く注意書を各戸に配布

兀藝妓 賞搜 0

を出した平町地方は其の後。豫防と注意書を各戸に配布は去る十九日馴染みを重ね平町大町に二名の赤痢患者。更に徹底を期する爲め近く郎養女元藝妓根本ハッ(三0) 郎養女元藝妓根本ハッ(三0) 茨城縣那河郡添町郡司長三 て居た同町初太郎四男川崎 知られる

町當局では非常に狼狽し各群馬縣利根郡古馬橋生れ當の樣な男と手に手をとつて磐城訓盲院において石城郡新患者を見るに至つたので「長屋に忍び込む」留次郎(二七)と云ふ令業平二十四日午前九時から平町 かけ落ちしたが平町地方に

か豫防策を講じつつあるが

新患者を見るに至つたので

更に仲間

町其の他に二名のする事となった

れたに發見され平署員に逮捕さ 山炭礦長屋高橋清造方に忍午前二時頃湯本町字八仙入 を窃取せんさした處を家人 スのひきだしから金衣類等 び入り家人の熟する中タン 刊 休 無 日町石愛人競新十城行 行

四倉町 猫 が

町當局でも捨て置けずとな 既報の通りだがこれに對し ら急施町會を招集して協議 し更に二十三日午後五時か 日連袂辭職をなしたことは 郎氏に對する民政黨一部のが愈々通話を停止さるゝ筈 四ッ倉町消防組頭門馬庫次 し圓滿解决策をとる事とな し二十二日夜四倉署に消防 である約六十名は去る十六 不平から同黨員にして組員 組頭問題で の二十二日の 夕刻さ

平署に願出る 索 るかがこの一事だけで窺ひ の不景氣の如何に深刻であ あるにも拘はらず平町地方 7 ゐるが舊盆で

部異知(三〇)は二十二日|居るらしき形跡あると云ふ 共濟委員方部會を開催し過 石城共濟委員會

搜索方願出た。 ので二十四日 郡司は平署に

Ġ:

and the same 0)

これには平局も手を焼く

十日限りを納期とした七月せをなす筈 分市外通話料の納入 成績が 途方もなく惡

十一日に百餘と減少はした の未納があるので大童べの 同日締切りまでに二百餘二 督促を試みた結果それでも一飛行船は平町上空を二十二 い二十日朝となつても牛敷 報に接したので町民は四時 日午後四時半に

通過する

0

二十三日源治郎は郡山署に

願ひ出

12

うと考へたのでやむなくこ 電話加入者が迷惑するだら 滞納者の電話を全部通話停 者が多い云々と云つて 止してしまつたのでは他の ですが然しさうかと言つて 且十餘名の滯納、當局もこ た滯納者は主に一圓以下の 十三日正午まで循環しまし んな事はあまり例の無い事 なつても尚ほ

1 V 7

るのはたつた一日 旗日と日曜と重な 來年の唇が出來ました

ものである。或は從來の學

の獻上暦も本月中に謹製 來月初旬全部完成し恒例 御遷宮のため例年より早伊勢神宮の昭和五年暦は **〜昨今殆んご印刷を終り** 平町の 當り年 架設電話は

日が重なるのは十一月二|井平署長、伏見平町長立會 四千部來年は日曜日と祭前九時元商業學校に於て荒 らであるその數百九十萬|したが愈々來る二十九日午 十三日の新甞祭が一度あいの上で抽籤を行ふ事に決 を終る豫定で一般に頒布 されるのは十月十五日か 通架設電わは四十口と決定 既報の如く平町の本年度普 來る廿九日抽籤 る所に非ず。

心不滿より金品を支出して 徒らに屈從し仕方なしの内 發起人の趣意書氏名の前に の誠意を披歴して餞別もよ 有する諸士は出來得る丈け そいをは一般民衆に之を公」なり、 し是れ敢へて小生の關涉す 只だ送るもの むとしつつある今日 とを知らねばならなっ

| 荷同人を奏||する由 見した者に は五十圓を持 でゐたが小名濱沖合六十浬 外で今かり 娘から何れ

も戸外に出っ しど待ちあぐ

記念品を贈呈する為め個人ても仕方なしの署名者一部

殊更憑納

里を通過したこととて五時|平町役場、各知名の士たる|ても發起人は相當知名の十

れも何等

度有事

寄附金を求めたる由聞及ぶず。 仕方なしに非ざるとし

會社より隨意 ありと勢び断言するを憚ら

李郵便局加入の電話は八百した門傳清吾、小野務平雨 深刻な不景氣の反影? 民は何い

四十四番迄あるが本月の二氏の視察報告に事業の打合 霞ケ浦を出發したツェ伯號 姿を見せ エ伯號 n 4

気取りで郡山市内に潜伏中 らしいとてこれが搜索方を 噂によると情夫と共に夫婦 ひ逃走行衞不明となつたが 夫の不在中家財道其を賣棉 中吹とち(三四)は去る十日 町字鍛冶町三三源治郎妻

半に至るも雄姿を見せす町 次郎の妻 れも失望し 別して一般の士に批判を求益に有利ならしむことを欲を深ふすると同時に拙文をり自己の害は利に轉じ利はの如き事實にあたり其の屋のまるイートによりま 平町地方の為め、一方は治 小生の望官東諸士は總じて一意我がである。 の如き事質にあたり其の感 の場合は此の種の斡旋によ るものゝ如し。小生屢々斯|連鎖的關係を有し| 列擧しシラミ潰しに歴訪せ 事業家あり、 金名簿には各人別を承細に|政治家あり、 もの發起人たり。 其の寄附/4り。 何 實業家あり、

小生の不安とする所亦此處|~……・対の反省を促すも何故に與へねばならぬか?|ゝありし事實にして敢へて 如きものを受取らねばなら 以上は過去幾度か此の種以 で等は一般人民より斯くの|ずるものであるo 金品を受けて行く。何故に かくることを至當なりと信して必ず地方民より相當の 廣告等にて一般民衆の呼び 然るに一度び去るに臨んで、民意を尊重して寄附帳の如 ぬかは別として、吾々等は|外の事共にて繰返へされつ |感謝に堪えざるものである||同時に此の種の企では只々 安、一方は税務の爲めに盡念品贈呈もよし、 は寄附であり餞別であると 摩せられたる事は異口同音 ありて 甚だ諒解に苦しむ」のに非ざることを附言して 置く。 餞別も敢へて惜しまざると きものを以って求めず新聞 小生の望まんでする所は記 送別會も

千人中一人にてもありとしである。 で表し得んや…… して發起人に開質する所以を表し得んや…… して發起人に開質する所以を表し得んや精神的なる差別の意と望むと共に前文各項に對 てもの 而して最も密接なる關係を|策を聲明し國民國家の立直表し野天歡送會を可ならむ|問はず現內閣は凡て緊縮政 の意に於て之れを行ふとす「極度に疲弊行詰りたる社會を謝し旣往の親交に酬ゆる」平町民よ!時代は!現代は しをなさむとし節約を奬勵 足は直ちに平町の自覺不自 而して吾々の一擧手、一投 し然る後金解禁を斷行なさ **覺の岐路たるを考へ凡てに** 生深く。謝する所なりと表長を、材料にせることして警察署長 民政、政友の如何を たるこ

會 の定した 8 寄

るだけでサラリー

|般秋田縣の社會事業を視察||今回平警察署長、平税務署||長更てつに付歡送會を廢し **小生は茲に於て發起人中に**

和人并屋漆器店

本院醫事法制囑託 法學士

本院主管

忠

鹽屋最上醬油釀造元

化

72

ひら正宗

一等賞受領品亦

評會

藥衛生試驗所 局所

局長師

醫學博士

孝英林慶

平夫藏造睦

〇 特

師

波

電話四〇五番

耳鼻咽喉科

X

S Paris

藥

劑

花柳菊 满路

新潟醫學士

佐赤高

電話五二番

内科小兒科

營城共濟病院組織

●現代醫藥界の驚異

田

H

(日曜日) ② 登表八月三十一日本紙上 ○ 登表八月三十一日本紙上 ○ 証解者には拾名へ賞品差上ます 上で御考へ下さいとおのぞいた

M. Consens of 三圓 五圓 では

▼十二九三里路 しまます 一本 野前通り

御注文下さい

本有額才

3

280

の領用命

は

王婦之友、

婦人俱樂部、

が最高

E

見本種々取揃ひました

東北代理店大阪製版印刷會社

Fig

Fi

製造所

平町新田

前日

置館七 三 元 三 元 春

地方代理店

F

T.

ዺ .

4

.

國下 ンナ重症デ E

1 1

美人

H

大小口间则到

昭和五年度の

調書子

取次迅速

質な

取引正確

慢性淋病藥 直グ

CITE STATE OF THE PARTY OF THE

易きも切り 用下サイ 諸債券公債類 興業

談目 公復勸

平町大工町 般其債債 質

トスル弊店ラ精なアノ御用ハ是非…… 門々御利

第

看護婦見習募集 町 磐

救療を申込る 御話し下さ

ø 方は當相談所へ知 (共濟病院內)

救病衛 相試談驗 (共濟病院內)

東京上野車坂四三

合容會

京

灵

F

题話下谷五七一二番

座婦八科女子必良斗 每日曜手術 醫學博士 柱 家 憲 外科部長 醫學士 氏 家 憲 人科部長 醫學士 氏 家 憲 產婦人科部長 醫學博士 產婦人科女子 泌尿科 內科部長 醫學博士 醫學博士 療科部 俊 次 茂 助郎 次介

(原長每日診療)

肺、ログマグ、腹膜炎、リウマチス、神經痛治療薬飲まずに治るヨリサ浸透療法 外用

醫學博士…內野先生實驗 醫師…吉松先生發見囚論より證據百聞一見に不如

一町六丁目(橋際)

THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IN COLUMN TWO

、入院隨意

定價/金四拾五錢、金九拾錢 送料/內地十二錢

特約店人

大阪市此花區吉野町一丁目 吉松醫院製劑部試用藥を浸透療法の小冊子を郵送す回實感希望者は郵券廿錢封入左記本舖へ申込かれ回實感希望者は郵券廿錢封入左記本舖へ申込かれ

週

年記念!!!

電話三のカ番

○ラデオも生れ

て五年

漸くにして完備した 記念 同同同同同(**取**附共)

い早速取附に伺ひます 金六十個金六十個国ョリ

〇電話にて御用命下 常磐ラヂオ商會 福島縣平町南町二六

二三四丁 王藥人婦的界世 金返効無藥任責

> 知らぬ御方が まだあります 法もあります

無代進呈の方

層話氏に一番

臺さして發明したる理想的樂劑を敷ケ年に亘る惡性の子宮病に惱む人を研究此の有名な美神丸を、夫婦仲のよくなる美神丸 名四大雑誌に効果が發表になつてあります 定價一週分四十錢 十週分參圓五拾錢 婦女界、婦人世界等有

平町古鍛冶町(縣社ノ下)

話 四 番店